

## 内科臨床研修プログラム（1年次必修：3ヶ月間）

### I. 一般目標

各科共通の基本的な研修目標(厚生労働省指針)である「基本的臨床研修」を実践する。特に臨床医として必要な医の倫理、ならびにプライマリケア・救急医療の基盤となる内科的知識および技能を習得すると共に、患者さんとの間の信頼関係を保ちながら人間を中心に考える医療を実践するための基本的態度を身につける。

### II. 研修施設と研修指導責任者・指導医

1) 研修施設 医療法人社団誠馨会 新東京病院

2) 研修実施責任者・指導医 北村 英之（キタムラ ヒデユキ）

#### 内科研修 週間予定表

	時間	月	火	水	木	金	土
午前	8:30~12:00	救急外来・病棟処置	救急外来・病棟処置	救急外来・病棟処置	救急外来・病棟処置	総回診	救急外来・病棟処置
午後	13:00~17:00	救急外来・病棟処置	救急外来	救急外来・病棟処置	病棟カンファレンス	救急外来・病棟処置	

※緊急な手術・処置・検査等で変更が生ずる場合もある。

※基本的には、内科救急外来当番医に付き急患診療を行い、外来⇒病棟、緊急、一般検査等を経験する。

### III. 行動目標および評価項目

評価記載 A：到達目標に達した  
B：目標に近い  
C：目標に遠い

#### 1 基本目標

- 1) 頻度の高い内科疾患（高血圧・糖尿病・脳血管障害・虚血性心疾患・喘息・肺炎・消化性潰瘍・肝炎・肝硬変・慢性胃炎・癌など）の診断・治療ができる。
- 2) 救急救命処置（バッグマスク人工呼吸・気管内挿管・胸骨圧迫式心マッサージ・静脈ライン確保・直流除細動等）ができ救急の初期治療ができる。
- 3) 適切に上級医、あるいは他科にコンサルテーションができる。
- 4) 成人病のリスク因子を理解し、患者・家族に生活指導ができる。

自己評価

指導医評価

A B C

A B C

A B C

A B C

A B C

A B C

A B C

A B C

5) 老人の生理的・精神的特徴を理解し、一般的治療ができる。

A B C      A B C

指導医サイン

---

2 診療法：内科の初期診療に必要な基本的診療法を身につける。

1) 病歴を的確に要領良く取る事ができ、記載・プレゼンテーションができる。

A B C      A B C

2) 内科的診療法を確実にこなせる。

A B C      A B C

3) 眼底所見を確実に取る事ができる。

A B C      A B C

4) 鼓膜・鼻腔・咽頭の所見を確実に取る事ができる。

A B C      A B C

5) 直腸診を行い、粗大病変を指摘できる。

A B C      A B C

6) 妊娠の初期徴候を判定できる。

A B C      A B C

7) 主要皮膚病変を診断できる。

A B C      A B C

指導医サイン

---

3 基本的臨床検査治療法：基本的な臨床検査治療法の選択・解釈、及び実施能力を身につける。

1) 尿の肉眼的、化学的検査を実施、解釈できる。

A B C      A B C

2) 便の肉眼的検査と潜血反応を実施、解釈できる。

A B C      A B C

3) 血液一般検査と白血球百分率の検査の解釈ができる。

A B C      A B C

4) 止血機構に関する諸検査の指示と解釈ができる。

A B C      A B C

5) 血液生化学的検査を適切に指示し解釈ができる。

A B C      A B C

6) 血清・免疫学的検査を適切に指示し解釈できる。

A B C      A B C

7) 喀痰・髄液のグラム染色を実施し解釈ができる。

A B C      A B C

8) 細菌培養及び薬剤感受性試験の結果を解釈できる。

A B C      A B C

9) 動脈血ガス分析の結果を解釈できる。

A B C      A B C

10) 心電図をとり、その結果を解釈できる。

心臓ペースメーカー（一時的、永久）の適応が理解できる。

心臓カテーテル検査の適応が理解できる。

A B C      A B C

11) 肺機能検査の適切な指示と主要変化の解釈ができる。

気管支鏡検査の適応ができ、介助ができる。

基本的な人口呼吸管理ができる。

A B C      A B C

12) 腎機能検査の適切な指示と結果の解釈ができる。

腎生検の適応が理解でき、介助できる。

血液透析の適応方法を理解できる。

A B C      A B C

- |  |   |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|---|
| 13) 脳波検査の適切な指示と主要変化が理解できる。   | A | B | C | A | B | C |
| 14) 内視鏡検査の適切な指示と主要変化が理解できる。<br>内視鏡的治療法（食道静脈瘤硬化療法、ポリープ<br>切除）の適応が理解でき、介助ができる。 | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

4 画像診断法：基本的な画像診断法を安全に確実に実施し、  
かつ読影能力を身につける。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1) X線障害の予防を配慮してX線撮影の指示ができる。                                   | A | B | C | A | B | C |
| 2) 身体各部のX線撮影を適切に指示し読影ができる。                                    | A | B | C | A | B | C |
| 3) 各種造影検査（腎盂造影・胆嚢造影・消化管造影<br>・腹部血管造影等）を適切に指示し、主要変化を<br>指摘できる。 | A | B | C | A | B | C |
| 4) 身体各部の超音波検査を適切に指示し主要変化を<br>指摘できる。                           | A | B | C | A | B | C |
| 5) 身体各部のCTスキャンを適切に指示し主要変化<br>を指摘できる。                          | A | B | C | A | B | C |
| 6) 身体各部のMRI検査を適切に指示し主要変化を<br>指摘できる。                           | A | B | C | A | B | C |
| 7) 核医学検査を適切に指示し主要変化を指摘できる。                                    | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

5 採血法：臨床検査及び輸血のための血液を採取する能力を  
身につける。

- |                                      |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1) 臨床検査の種類に応じた注射器、容器の準備を指<br>示確認できる。 | A | B | C | A | B | C |
| 2) 検査に必要な採血量をあらかじめ定める事ができる。          | A | B | C | A | B | C |
| 3) 静脈血を正しく採血できる。                     | A | B | C | A | B | C |
| 4) 動脈血を正しく採血できる。                     | A | B | C | A | B | C |
| 5) 供血用血液を採取する際の注意を述べる事ができる。          | A | B | C | A | B | C |
| 6) 供血用血液を正しく採取できる。                   | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

6 注射法：各種注射法の適応についての知識の正しい技術を身につける。

- |                                    |   |   |   |   |   |   |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1) 注射による投薬の適応を述べる事ができる。            | A | B | C | A | B | C |
| 2) 注射による障害を列記し、その予防策と治療法を述べる事ができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 3) 注射部位を正しく選択できる。                  | A | B | C | A | B | C |
| 4) 注射部具についての正しい知識を述べる事ができる。        | A | B | C | A | B | C |
| 5) 各注射法実施上の注意を述べる事ができ、施行できる。       | A | B | C | A | B | C |
| 6) 静脈確保ができる。                       | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン

---

7 輸血・輸液法：輸血・輸液の基本的知識と手技を身につける。

- |  |   |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|---|
| 1) 輸血の種類と適応を述べる事ができ、正しく実施できる。  | A | B | C | A | B | C |
| 2) 血液型検査の指示と解釈が適切にでき、かつクロスマッチを正確に実施し判断できる。                             | A | B | C | A | B | C |
| 3) 輸血量と速度を決定できる。   | A | B | C | A | B | C |
| 4) 輸血による副作用と事故を列記し、その予防・診断・治療を述べる事ができる。                                | A | B | C | A | B | C |
| 5) 輸液を正しく実施できる。即ち、水・電解質代謝の基本理論、輸液の種類と適応を述べる事ができ、輸液すべき薬液とその量を決定する事ができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 6) 輸液によって起こり得る障害をあげ、その予防・診断・治療法について述べる事ができる。                           | A | B | C | A | B | C |
| 7) 中心静脈栄養の指示を適切に行える。   | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン

---

8 穿刺法：診断または治療上必要な体腔などの穿刺法についての正しい知識と技術を身につける。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1) 腰椎、胸腔、腹腔、心嚢、骨髄の各穿刺法の目的、適応、禁忌、実施方法、使用器具、実施上の注意、起こりうる障害とそれらに対する処置について述べる事ができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 2) 内圧測定、採液、排液、抜気、薬剤注入などの目的に応じて、適切な器具と方法を選択できる。                                  | A | B | C | A | B | C |

- |                                |   |   |   |   |   |   |
|--------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 3) 腰椎、胸腔、腹腔、骨髄の各穿刺法を介助する事ができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 4) 採取した液の検査を指示し、その成績を解釈できる。    | A | B | C | A | B | C |
| 5) 薬剤注入の適応を正しく判断できる。           | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

9 処方：一般的な薬剤についての知識と処方の仕方を身につける。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1) 一般的な経口薬剤と注射薬剤（鎮痛剤、鎮静剤、解熱薬、胃腸薬、降圧剤、抗生物質など）について適応、禁忌、使用量、副作用、配合禁忌、使用上の注意を述べ、それらを処方する事ができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 2) 薬物療法の成果を評価する事ができる。   | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

10 導尿法：導尿の適応、実施上の知識と技術を身につける。

- |                                 |   |   |   |   |   |   |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 1) 導尿の適応を述べる事ができる。              | A | B | C | A | B | C |
| 2) 軟性カテーテルの挿入と緊急時の膀胱穿刺ができる。     | A | B | C | A | B | C |
| 3) 持続的導尿の管理が正しくでき、その中止時期を判断できる。 | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_

11 末期患者の管理：生物学的、心理的、社会的諸観点から末期患者の適切な管理を行う能力を身につける。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1) 末期患者の病態生理と心理状態とその変化を述べる事ができる。                | A | B | C | A | B | C |
| 2) 末期患者の治療を医学的のみならず、人間的、心理学的な理解のうえに立って行うことができる。 | A | B | C | A | B | C |
| 3) 末期患者とその家族との間の社会的環境を理解し、それに対して配慮する事ができる。      | A | B | C | A | B | C |

指導医サイン \_\_\_\_\_